



海老原嗣生に聞く 人事・雇用“定説”の真贋 ～そうだったのか！ データで読み解く人材問題の核心～

HRジャーナリストに12のクエスチョン

雇用問題が、マスコミや政治の場で語られるようになって久しい。日本経済の低迷を象徴するかのようになり、その話題の多くは、辛く悲しいものばかりだ。いわく、「非正規社員の増加で、雇用は危機的な状況にある」、「若者の雇用は最悪で明日が見えない」、「大学を出てもまともに就職などできない」……。

そんな状況に対して、異を唱え続けているのが、海老原嗣生氏だ。氏は、人材関連ビジネスを広く手がけるリクルートグループで20年を過ごし、その間に、雑誌『Works』やビジネス誌『モッカ』の編集を手がけ、

現在は独立してニッチモ社の社長を務める傍ら、人事専門誌『HR mics』（リクルートエージェント刊）の編集長に就いている。

昨年刊行した『雇用の常識 本当に見えるウソ』（プレジデント社）にて、雇用にまつわる言説の多くを、データや豊富な事例をもとに『風説』と喝破し、『学歴の耐えられない軽さ』（朝日新聞出版）では、就職氷河期の実態を、増えすぎた大学問題が根幹にある、と新たな見解を示してくれた。近刊の『「若者はかわいそう」論のウソ』（扶桑社新書）では、ワーキング・プアやネットカフェ難民についての一般論もデータと事例で「事実とはかけ離れている」と言及をしている。

人事領域と関連の深い「雇用」「教育」「就職」問題で、気を吐き続けるジャーナリストの同氏に、今、巷に流れている“12の定説”の真偽について質問してみた。人事スタッフとしての視座を培うために、ぜひ、氏の回答を参考にさせていただきたい。

構成

- Q1：ワーキングプアが1,000万人もいるって本当ですか？
 - Q2：最低賃金を1,000円に上げると困るのは誰ですか？
 - Q3：同一労働同一賃金って本当に意味があるのでしょうか？
 - Q4：正社員が減っているって、額面通り受け取れますか？
 - Q5：若年層の雇用が危ないって叫ばれていますが…
 - Q6：派遣解禁で非正規が増えたのは事実ですか？
 - Q7：OECDが格差の主因は非正規雇用と指摘していますが…
 - Q8：就職氷河期は、企業が採用を減らしたから起きたのですか？
 - Q9：就職氷河の今、学生には就職先がないのでしょうか？
 - Q10：就職氷河だと、企業はらくらく採用ができるのですか？
 - Q11：成果主義で、社内が殺伐としたという話をよく聞きますが？
 - Q12：両立支援制度の充実で、女性の社会進出は進むのでしょうか？
- Final Answer：人事の皆さんへ